

第2回会合資料②

- 沖縄陸軍病院南風原壕群の事例について -

1. 沖縄陸軍病院南風原壕群の位置と立地概要	2
2. 沖縄陸軍病院南風原壕群とは	
2-1 南風原陸軍病院	3
2-1 沖縄陸軍病院南風原壕群	3
3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要	
3-1 沖縄陸軍病院南風原壕群の文化財指定から公開まで	4
3-2 文化財指定から公開までの主な実施内容	5
3-3 沖縄陸軍病院南風原壕群の文化財指定のきっかけ	6
3-4 沖縄陸軍病院南風原壕群の活用	7
3-5 南風原陸軍病院壕保存・活用調査研究委員会の発足	8
3-6 南風原陸軍病院壕保存・活用調査研究委員会の答申	9
3-7 南風原陸軍病院壕群整備検討委員会の発足	10
3-8 南風原陸軍病院壕群整備検討委員会の答申	11
4. 沖縄陸軍病院南風原壕群の今	12

令和3年3月29日

第32軍司令部壕保存・公開検討委員会

1. 沖縄陸軍病院南風原壕群の位置と立地概要

●所在地:南風原町字喜屋武(宇地真原、毛原、大門原)



出典:南風原陸軍病院壕一整備・公開についての答申書-(2003年3月)

2. 沖縄陸軍病院南風原壕群とは

2-1. 南風原陸軍病院

- 南風原陸軍病院は通称名称であり、正式には沖縄陸軍病院、部隊名は球18803という。
- 第32軍(沖縄守備軍)直属の陸軍病院である。
- ひめゆり学徒が治療看護、飯あげ、糞尿の始末・死体捨てなどの激務をこなしたことで知られている。

2-2. 沖縄陸軍病院南風原壕群

- 第二次世界大戦の戦争遺跡文化財指定 全国第1号
- 2007年(平成19年)から一般公開を開始しており、暗くて狭い壕内に入り、傷病兵が収容された状況を追体験できる。
- 沖縄陸軍病院の様子を再現した模型や、町内の壕から出てきた薬品・日用品や武器弾薬、戦争体験者の証言などを展示する南風原文化センターとともに、平和学習の場として活用されている。



写真: おきなわはえばる観光ガイド(南風原町観光協会公式サイト)

(<https://www.haebaru-kankou.jp/index.php/peace-education/military-hospital.html>より引用)

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-1. 沖縄陸軍病院南風原壕群の文化財指定から公開まで

- 1990年、南風原町は沖縄陸軍病院南風原壕群を町文化財として指定し、17年後に公開している。
- その間、壕の活用に向けて、壕の全体像やその構造等を把握するため、各種調査を実施している。

実施項目	年度	1990年度	1991年度	1992年度	1993年度	1994年度	1995年度	1996年度	1997年度	1998年度	1999年度	2000年度	2001年度	2002年度	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度	
文化財指定		◆																		
南風原陸軍病院壕保存・活用調査研究委員会				◆ 発足			◆ 答申													
壕群一帯測量調査						◆														
20号壕測量・崩落・地質学調査							◆													
20号壕中央部・東側出入口試掘調査								◆												
20号壕周辺試掘調査									◆											
南風原陸軍病院壕群整備検討委員会										◆ 発足										
考古学的調査																				
物理工学的調査																				
20号壕一般公開																				◆
南風原平和ガイド養成講座の開始																				◆

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-2. 文化財指定から公開までの主な実施内容

● 2003年の整備検討委の答申により、壕群の中で保存良好な20号壕を整備して公開することが決定。


実施年	実施項目	実施内容等
1990年 (平成2年)	南風原町が南風原陸軍病院を 町文化財として指定	黄金森に残された陸軍病院壕を「沖縄戦の負の遺産」と位置付け、いくつかの壕を壕群として、南風原町の史跡のひとつとして文化財指定。
1992年 (平成4年)	南風原陸軍病院壕保存・活用調査 研究委員会を発足	3年間にわたり、県内外の壕を中心とした戦跡の調査、陸軍病院壕の聞き取り調査や測量・地質・発掘調査を基に、保存・活用のあり方を検討した。
1996年 (平成8年)	南風原陸軍病院壕保存・活用調査 研究委員会による答申	20号壕と24号壕の保存・活用が、保存・活用計画の目玉だが、壕内は落盤や崩壊が進行しており危険な状態であるから、 出入り口付近のみ強固な構造物で補強を施し、安全を確保した所から壕内部を観察する方法を提案。
1997年 (平成9年)	南風原陸軍病院壕群整備検討 委員会を発足	考古学的調査、物理工学的調査
2003年 (平成15年)	南風原陸軍病院壕群整備検討 委員会による答申	20号壕は、 見学者が通り抜けできるように再現・復元・原形のままという3つの手法で整備 し、24号壕は、入り口部分を復元し壕内をのぞく方法により追体験をする(24号壕は2002年土砂崩れにより入り口埋没)。
2007年 (平成19年)	20号壕の一般公開開始	同年、南風原平和ガイド養成講座開始及びガイドの会発足

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要


3-3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の文化財指定のきっかけ

- 沖縄戦では20万人余の方々が亡くなり、南風原町でも人口の約40%以上が戦争の犠牲となったことから、町の歴史として消し去ることはできないとの考えがベースにあったこと。
- 南風原高校の教員であった吉浜忍先生が中心となり、南風原高校の生徒を主体にして、各字の戦災調査が行われ、継承活動が活発であったこと。
- 厚生省(当時)による南風原陸軍病院の遺骨収集が継続して実施されていたこと。
- 映画「ひめゆりの塔」の撮影があり、町民の高い関心が寄せられていたこと。
- 南風原文化センターが開館し、南風原陸軍病院壕内の復元展示をしていたこと。
- **黄金森で運動公園の建設計画があったこと。**


不安...
工事が進行すれば壕が破壊されるのではないか!?



アピール!
建設計画の中で壕の保存を訴えていこう!

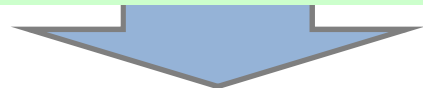


チャンス!
文化財に指定し保存しよう!

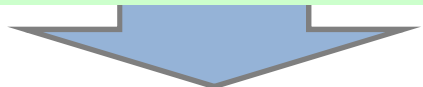


南風原町文化財保護委員会は、県庁や文化庁に指導を仰いだが...

- 【沖縄県庁】 答え: 時期尚早。
- 【文化庁】 答え: 遺跡としては歴史が浅く、戦争のために構築されたものは文化財指定になじまない。



南風原町文化財保護委員会は、有形・無形文化財の指定に関する条例制定に取り組んでいたもので...
「沖縄戦に関する史跡」という項目を指定基準に加えることで、文化財の指定は可能であると町に答申。



全国で初めて戦争遺跡を文化財指定

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-4. 沖縄陸軍病院南風原壕群の活用

●文化財として指定し「永久保存」することになった沖縄陸軍病院南風原壕群。保存するだけでなく活用することを模索し始めた。

序 文

南風原町教育委員会
教育長 神里富夫

南風原の顔の一つに「沖縄戦」があります。その沖縄戦の顔が黄金森の「南風原陸軍病院壕」です。

南風原町は1990年に全国で初めて第二次世界大戦に関する遺跡として「南風原陸軍病院壕」を文化財に指定しました。文化財として指定するということは「永久保存」するということです。

そして保存するだけでなく、「活用」しなければなりません。「保存」と「活用」は矛盾します。壕を公開活用するということは、現状を破壊するおそれがあります。しかし公開しなければ、その壕の価値を伝えることは出来ません。

その活用に向けて、壕の全体像やその構造等を調査しなければなりません。これまでの琉球大学の池田榮史先生とその学生達の考古学の地道な調査によって、いろいろなことがわかってきました。

これまでの調査でわかったことをこの報告書にまとめていただきました。この報告書は2006年の壕の保存公開に向けての基礎資料となり、大変貴重なものです。池田先生、そして学生諸君に心から感謝申し上げます。

南風原陸軍病院壕群 I 考古学調査報告書 I — 抜粋

文化財として「保存」するだけでなく、「活用」しなければならない。

「保存」と「活用」は矛盾する。

壕を公開するということは、現状を破壊するおそれがある。

しかし、公開しなければ、壕の価値を伝えることはできない。

活用に向けて、壕の全体像やその構造等を調査しなければならない。

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-5. 南風原陸軍病院壕保存・活用調査研究委員会の発足(1994年:平成6年)

- 委員会は3年間にわたって、県内外の壕を中心とした戦跡の調査、陸軍病院壕の聞き取り調査や測量・地質・発掘調査を基に、保存・活用のあり方を検討した。

【初年度】 第1外科壕群と第2外科壕群一帯を測量調査

○聞き取り調査や厚生省の遺骨調査の際の情報を基に作成された壕の分布図に記された壕の半数近くは、この測量調査では確認できなかったことから、**壕の位置を確定するための試掘調査が必要である**と調査計画に明示された。

【2年目】 20号壕と24号壕内部の測量調査、壁面の崩落調査 及び 地質学的調査 20号壕の中央部と壕の東側出入口部分の試掘調査

○壕の中央部からは証言にある手術場に関係するとみられる**繊維類、金具類、薬品類、治療用具等**が出土し、**戦時中の状態がそのまま検出**された。

○**出入口の位置や構造が明らか**になった。

○聞き取り調査や証言で出てこなかった**軍の機密事項である遺構と遺物**が検出された。

【3年目】 20号壕周辺で試掘調査

○地形や聞き取り調査などから**壕の存在が想定された5箇所**を試掘調査し、**床面が確認**された。

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-6. 南風原陸軍病院壕保存・活用調査研究委員会の答申(1996年:平成8年)

(2) 20号壕と24号壕の保存・活用計画

① 保存・活用の方針

南風原陸軍病院壕の保存・活用の目玉は、現在最も保存状態が良好な20号壕と24号壕の保存・活用である。20号壕は第二外科の患者壕・手術壕として、24号壕はひめゆり学徒隊の集結壕・患者壕として、陸軍病院の沖縄戦を語ってくれる。両壕とも壁にはツルハシの跡や坑木を立てた跡(20号壕には焼けた坑木)も残っていて、見る人に当時の臨場感を与える。ところが51年という歳月は、壕内の風化が進み天井や壁の崩落が起こっている。委員による地質・地形・岩盤調査の結果によると、風化速度は早まっており、活用のため壕の中に外気を入れるとその速度はなお早まるという結論を出さざるを得ない。

20及び24号壕の現況は落盤や崩壊が進行しており、危険な状態である。長期的に壕の内空断面を維持保全するためには壕地質の風化を極力抑制することが必要不可欠である。壕地質の化学的・物理的風化の抑制は壕内の乾湿、地表水の壕内への浸透防止及び壕内水の早期排除の処置が重要であると言える。

20号壕は断層部に植生の根が壕天盤まで達しており、天盤のクラックの開口や風化を促進して落盤・崩壊を惹起するため、地上部の植生(樹木)を排除することが望ましい。

24号壕も20号壕と同様であり、入口付近の浸透水が多いため、浸透防止が特に必要である。

壕の内部に大掛かりな補強工事を施すならば壕の内部活用は容易である。しかし、現形を損なう補強工事は、保存・活用の「理念」で言う「壕での追体験」の主旨に反する。その上壕は文化財指定であるだけに、現状変更を抑制する文化財保護法にも反することにもなる。しかし両壕を完全に閉じてしまえば壕の活用の視点から離れる。そこで委員会としては、両壕の入口部分のみ補強工事を施し、内部は現形のまま残し、活用すること、すなわち出入口付近に支保工あるいは強固な構造物で補強を施して安全を確保した所から壕内部を観察する方法を提案する。壕内は若干の排水施設を施す程度の現状変更を行い、活用する方法も提案する。

壕の保存・活用は現時点及び将来の安全性を確認するために、地すべり対策や黄金森公園の計画とも絡めて今後の十分な調査に基づく解析がされ、結論づけが望まれるため今後の課題として残される。

南風原陸軍病院壕 — 保存・活用についての答申 — 抜粋

保存・活用の目玉は、20号壕と24号壕の保存と活用である。

各種調査によると風化速度は早まっており、活用のために外気を入れるとその速度はなお早まる。

落盤や崩壊が進行しており、危険な状態。壕内の乾湿、地表水の浸透防止、壕内水の早期排除の処置が重要。

植物の根が天盤のクラックの開口や風化を促進して落盤・崩壊を惹起するため地上部の植生(樹木)を排除することが望ましい。

現形を損なう補強工事は、**保存・活用の理念**でいう「**壕での追体験**」の主旨に反し、**現状変更を抑制する文化財保護法にも反する。**

出入口付近のみ強固な構造物で補強を施し、安全を確保した所から壕内部を観察する方法を提案する。

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-7. 南風原陸軍病院壕群整備検討委員会の発足(1997年:平成9年)

- 1996年の保存・活用についての答申を具体化するため、整備検討委員会を発足した。
- 「2006年壕の公開」を目標に、壕群の整備、公開の具体的計画を町に答申するため発足し、6年間にわたり実施された考古学的調査や、物理工学的調査の結果を基に審議を重ねた。

考古学的調査

- 南風原陸軍病院壕群についての情報(聞き取り記録・戦史記録など)を徹底的に収集する。
- 収集した情報を踏まえながら現地で地形測量図を作成し、事前情報との対比と確認を行う。
- 地形測量図や対比確認の結果を踏まえ、壕やその他の遺構が存在すると予測される地点の試掘を行い、その具体的な位置や埋没状況を確認し、考古学的方法により資料を作成する。
- 壕の位置の確認調査や発掘調査の成果をまとめ、2000年に「南風原陸軍病院壕群Ⅰー沖縄県南風原町所在南風原陸軍病院壕群の考古学的調査報告書Ⅰー」を刊行した。

物理工学的調査

- 安全確保の検討には、地形、地質、壕周辺の地盤強度の現況把握が必要であるから、既存の地形図に壕内測量図を座標に落とし込み、正確な位置での電気探査とボーリング調査を実施した。

【電気探査】→壕とみられる空洞が確認できた。

【ボーリング調査】→壕の土質は島尻泥岩層(クチャ)の上に小禄砂岩層(ニービ)が成層している。

- 地盤の工学的強度から壕の現況強度を把握し、公開の際に確保すべき安全率まで補強の設計を行った。

3. 沖縄陸軍病院南風原壕群の経緯概要

3-8. 南風原陸軍病院壕群整備検討委員会の答申(2003年:平成15年)

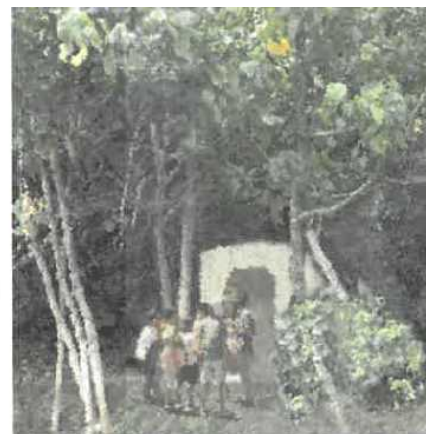
- 20号壕と24号壕は壕群の中で保存良好な壕であり、この二つの壕の**原形を損なうことなく整備して公開**する。
- 20号壕については、**見学者が通り抜けるように、原形を可能な限り維持し、かつ、安全性を考慮して整備**する。壕は原形を勘案し、**区域によって再現・復元・原形のまま**という3つの手法で整備する。

4. 保存・活用のあり方

(1) 中心壕の保存・公開

20号壕と24号壕は壕群の中で保存良好な壕であり、この二つの壕の原形を損なうことなく整備して公開する。

本物の壕の中に入ると臨場感があり、戦争の悲惨さを追体験できる。



5. 整備計画

壕及びその周辺の整備については下記のものがあるが、これらについては公園事業と関連づけて進めていく必要がある。

(1) 20号壕の整備

見学者が通り抜けできるように、原形を可能な限り維持し、かつ安全性を考慮して整備する。壕は原形を勘案し、**区域によって再現・復元・原形のまま**という3つの手法で整備する。

- ①ほとんど原形を維持していない壕の入口部分は本来の壕口を再現し、かつ安全性を考慮した工法で整備する。
- ②壕内の崩落が著しい区域は原形を可能な限り維持しつつ、安全性を考慮しながら、もとの形に復元する。
- ③壕内の原形が残っている区域はそのままの状態にする。
壕口には広場をつくり、説明板を設置する。

出典:南風原陸軍病院壕
-整備・公開についての答申書-



公開後の壕内外のイメージ(出典:整備・公開についての答申書)

4. 沖縄陸軍病院南風原壕群の今

●20号壕の公開については、壕内の劣化を促進させないよう見学方法に工夫を凝らし、対応している。

その1 完全予約制（見学者は事前の予約が必要です！）

その2 入壕人数制限（一度に入る人数は10名以内となります！）

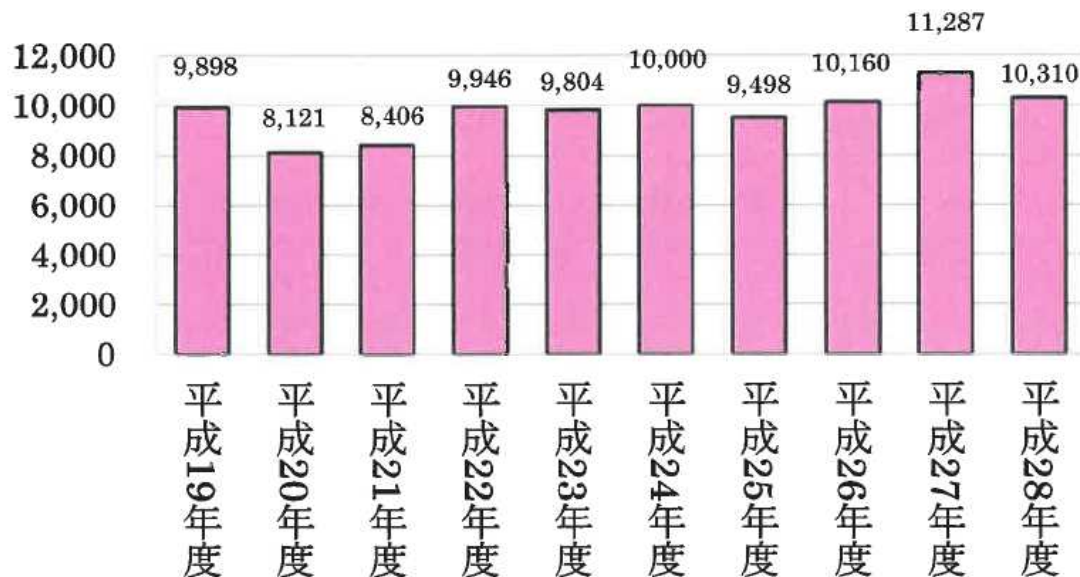
その3 入壕時間制限（見学時間は1グループ20分程度とします！）

その4 常駐ガイドの案内（壕内を傷付けるなどの行為もチェックしています！）

その5 ヘルメット着用・懐中電灯使用（見学者のケガ防止に加え、壕内を傷付けることを防ぎます！）

●20号壕の見学者は年間1万人程度で推移している。

20号壕
年度別見学者数
(平成19～28年度)



出典：沖縄陸軍病院南風原壕群
20号現況調査についての答申書
(平成30年度)

4. 沖縄陸軍病院南風原壕群の今

- 文化財として保存する一方で、**壕の性質上劣化を覚悟で、制限をかけながら沖縄戦当時の現場を公開し、その実態を伝えることで戦争遺跡の価値を示す取り組みとなっている。**
- 壕の一般公開から13年が経過し、20号壕の内部も徐々に風化が進行しており、今後の一般公開について調査検討が必要となっている。
- 平成28年度、南風原町文化財保護委員会は、町教育長から20号壕の公開・活用や黄金森周辺の戦跡の活用について諮問を受けたことにより、「黄金森周辺戦跡活用部会」と「現況調査検討部会」を設置のうえ調査・議論し、平成30年度に、課題の検証や新たな取り組みについて答申している。

沖縄陸軍病院南風原壕群 20号現況調査について

荷重計（壕内天井面の動きや崩落を観測）、変位計（壕内壁面の動きや崩壊の観測）、パイプ歪計（丘陵の地滑りを観測）、シュミットハンマー（壁面・天井面の表層の強度測定）、温湿度計などの機材を使用した計測の結果から、沖縄陸軍病院南風原壕群 20号に危険かつ緊急性を伴う問題は確認されなかった。

しかし、緊急性はなくとも、将来的に大きな危険をもたらす可能性がある亀裂は、新たに数多く確認されている。こうした亀裂や剥落した箇所は、1995（平成7）年に作成された測量図と比較しても、大幅に増加しており、20年以上の年月の積み重ねにより、壁面や天井面の風化が著しく進行したことが分かっている。

亀裂や剥落は、見学者にとって危険であると同時に、進行することで、壕内の現況が損なわれていくことにもつながる。

以上のことを踏まえ、今後も沖縄陸軍病院南風原壕群 20号の一般公開を進めるにあたり、以下の作業を実施していくこととする。

1. 温湿度計やシュミットハンマー等を使用した定期的な観測を引き続き行い、壕内の環境の変動に関する記録を収集する。収集したデータの中に異常値が確認される場合、新たに20号壕の保存と公開のあり方について検討する部会を設置する。
2. 亀裂や剥落などにより、壕内の現況が損なわれることへの対策を実施する。対策方法については、現況調査検討部会による検討作業において、接着剤を使用した試験施工で一定の成果が得られている。その成果を踏まえ、壕内の亀裂箇所・剥離箇所に対して、接着剤を用いた保存措置を継続して実施する。
3. 引き続き、壕内の現況が損なわれないための対策方法に関する情報収集に努める。

沖縄陸軍病院南風原壕群20号 現況調査についての答申－抜粋

機材を使用した計測の結果から、危険かつ緊急性を伴う問題は確認されない。（現況調査検討部会）

しかし、緊急性はなくとも**将来的に大きな危険をもたらす可能性がある亀裂は、新たに数多く確認されている。**（現況調査検討部会）

亀裂や剥落した箇所は1995年の測量図と比較すると大幅に増加しており、**壁面や天井面の風化が著しく進行している。**（現況調査検討部会）

定期的な観測を引き続き行い、**異常値が確認された場合は、新たに20号壕の保存と公開のあり方について検討する部会を設置する。**（現況調査検討部会）

一定の成果がある**接着剤を用いた保存措置を継続して行い、壕内の現況が損なわれないよう対策方法に関する情報収集に努める。**（現況調査検討部会）

今後は、20号壕の見学だけでなく、24号壕の整備・公開や三角兵舎の復元など、黄金森全体の活用を検討する。（黄金森周辺戦跡活用部会）